

9月特集「秋が来ました！」読書の秋編 特集資料一覧

ラベル	書名	著者/訳者	所蔵	書き出し
1 620.4/チャ	園芸家の一年	カレル・チャベック /飯島 周訳	リコリス	庭の基礎をつくる方法は、いくつもある。いちばんよいのは、本職の庭師にまかせることだ。
2 913.6/アサ	少女は卒業しない	朝井 リョウ	リコリス	伸ばした小指のつめはきつと、春のさきっぽにもうすぐ届く。
3 913.6/イト	想像ラジオ	いとう せいこう	リコリス	こんばんは。あるいはおはよう。もしくはこんにちは。
4 913.6/エウ	東京タワー	江国 香織	リコリス	世の中でいちばんかなしい景色は雨に濡れた東京タワーだ。
5 913.6/シイ	三匹のかいじゅう	椎名 誠	ハートフル	またまた『すばる』という純文学系のこういう雑誌に出てきて、頼まれもしないのに(いやそうではないな。頼まれたのだった)、とにかくなにか私生活のどうでもいいようなことを連続して書くことになった。
6 913.6/シゲ	流星ワゴン	重松 清	リコリス	間抜けで哀れな父親がいた。五年前の話だ。
7 913.6/セオ	卵の緒	瀬尾 まいこ	リコリス	僕は捨て子だ。
8 913.6/タカ	マークスの山	高村 薫	リコリス	この暗い道は何だろうか。
9 913.6/ハタ	推理小説	秦 建日子	ハートフル	死体の数をいくつにするか。
10 913.6/フル	ハル、ハル、ハル	古川 日出男	リコリス	この物語はきみが読んできた全部の物語の続編だ。
11 913.6/マキ	鹿男あをによし	万城目 学	リコリス	ずいぶん、おさない頃の話だ。
12 913.6/ミサ	刻まれない明日	三崎 亜記	リコリス	鳩が平和の象徴だなんて、誰が言い出したんだろう？
13 913.6/ミナ	告白	湊 かなえ	リコリス	牛乳を飲み終わった人から、紙パックを自分の番号のケースに戻して席に着くように。
14 913.6/ムラ	海辺のカフカ 上	村上 春樹	リコリス ハートフル	「それで、お金のことは何とかなったんだね？」とクラスと呼ばれる少年は言う。
15 913.6/ヨシ	スウィート・ヒアアフター	よしもと ばなな	ハートフル	自分のお腹にぐさっと鉄の棒がささってるのを見たとき、ああ、こりやどう考えてもだめだ、自分は死ぬんだと思った。
16 913.6/ワタ	蹴りたい背中	綿谷 りさ	リコリス	さびしさは鳴る。
17 913.6/ワタ	勝手にふるえてろ	綿谷 りさ	リコリス	とどきますか、とどきません。
18 914.6/ホム	整形前夜	穂村 弘	リコリス	カップヌードルを食べるときもエレガントにみえるひとに憧れる。
19 933.6/トウ	ハックルベリ・フィンの冒険	マーク・トウェイン/ 大久保 博訳	リコリス	みんな、おいらのことなんか、知らねえだろう。『トム・ソーヤーの冒険』ってえ本を読んだことがなかったらな。
20 933.7/スサ	本泥棒	マーケース・ズー サック/入江 真佐 子訳	リコリス	語り手による紹介 自分、色 そして本泥棒について。
21 933.7/ハイ	夏への扉	ロバート・A.ハイン ライン/小尾 芙佐 訳	リコリス	あの六週間戦争が始まる少し前の冬、わが雄猫、審判者ペトロニウスとぼくは、コネチカット州の農場にある古い家で暮らしていた。
22 933.7/マク	これは小説ではない	デイヴィッド・マー クソン/木原 善彦 訳	リコリス	〈作者〉は文章を書くのを本気でやめたがっている。
23 933.7/モリ	青い眼がほしい	トニ・モリスン/大 社 淑子訳	リコリス	秘密にしていたけれど、1941年の秋、マリーゴールドはぜんぜん咲かなかった。
24 953.7/クリ	昨日	アゴタ・クリストフ/ 堀 茂樹訳	リコリス	昨日、心当たりのある風が吹いていた。以前にも出会ったことのある風だった。
25 963/ガル	予告された殺人の記録	G.ガルシア=マル ケス/野谷 文昭 訳	リコリス	自分が殺される日、サンティアゴ・ナサールは、司教が船で着くのを待つために、朝、五時半に起きた。
26 B913.6/イサ	重力ピエロ	伊坂 幸太郎	リコリス	春が二階から落ちてきた。

27	B913.6/カ	わたくし率イン歯一、または世界	川上 弘美	リコリス	——あなたの歯が生まれつきとことん健康であることはとてもよくわかりましたし面接はこれくらいなものですが、ねえ、そんなに必死に歯がいたいあなたのなんであるの？
28	B913.6/ク	パルタイ・紅葉狩り	倉橋 由美子	リコリス	ある日あなたは、もう決心はついたかとたずねた。
29	B913.6/シカ	城の崎にて・小僧の神様	志賀 直哉	リコリス	山の手線の電車で跳ね飛ばされて怪我をした、その後養生に、一人で但馬の城崎温泉へ出掛けた。
30	B913.6/ハシ	流れ星が消えないうちに	橋本 紡	リコリス	半年前から、玄関で寝ている。
31	B913.6/ホシ	声の網	星 新一	ハートフル	一枚のガラスを境にして、冬と夏とがとなりあっていた。
32	B913.6/ミシ	永すぎた春	三島 由紀夫	ハートフル	百子は、あんまり愛しすぎている、とよく思うことがあった。
33	B914.6/サノ	問題があります	佐野 洋子	リコリス	昔々あるところに、というくらい昔、せき止めにチミツシンという茶色い液体を飲まされた。
34	B933.6/オス	自負と偏見	ジェイン・オースティン/小山 太一訳	リコリス	世の中の誰もが認める真理のひとつに、このようなものがある。たっぷり財産のある独身の男性なら、結婚相手が必要に違いないというのだ。
35	B933.7/ダニ	死の蔵書	ジョン・ダニング/宮脇 孝雄訳	リコリス	古本の掘出し屋、ポビーは、一九八六年六月十三日の真夜中に殺された。
36	B933.7/ブラ	華氏451度	レイ・ブラッドベリ/宇野 利泰訳	リコリス	火の色は愉しかった。
37	B933.7/モム	月と六ペンス	モーム/中野 好夫訳	リコリス	はじめにチャールズ・ストリックランドを知ったとき、僕は、正直に言って、彼が常人と異なった人間だなどという印象は、少しも受けなかった。
38	B953.7/サガ	悲しみよこんにちは	サガン/河野 万里子訳	リコリス	ものうさと甘さが胸から離れないこの見知らぬ感情に、悲しみという重々しくも美しい名前をつけるのを、わたしはためらう。
39	B953.7/サン	夜間飛行	サン=テグジュペリ/二木 麻里訳	リコリス	夕暮れの黄金の光のなかで、飛行機の下につらなる丘にはすでに長い陰影が彫り込まれていた。
40	K913.6/アン	頭のうちどころが悪かった熊の話	安東 みきえ	リコリス	気がついたとき、熊は頭をおさえてすわっていた。
41	K933.6/トゥ	トム・ソーヤーの冒険	マーク・トウェイン/亀井 俊介訳	ハートフル	「トム！」返事がない。
42	YA913.6/モリ	つきのふね	森 絵都	ハートフル	このごろあたしは人間ってものにくたびれてしまって、人間をやっているのにも人間づきあいにも疲れてしまって、なんだかしみじみと、植物がうらやましい。
43	YA913.6/モリ	カラフル	森 絵都	リコリス ハートフル	死んだはずのぼくの魂が、ゆるゆるとどこか暗いところへ流されていると、いきなり見ずらぬ天使が行く手をさえぎって、「おめでとうございます、抽選にあたりました！」と、まさに天使の笑顔をつくった。
44	YA913.6/ワタ	インストール	綿谷 りさ	リコリス	自称変わり者の寝言
45	YAK913.6/ニシ	ビルマの豎琴	竹山 道雄	リコリス	ほんとうにわれわれはよく歌をうたいました。
46	開913.6/キタ	巴里茫々	北 杜夫	リコリス	夢であることは初めからあらかたわかっていた。
47	開913.6/ムラ	四月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて(『象の消滅』より)	村上 春樹	リコリス	四月のある晴れた朝、原宿の裏通りで僕は100パーセントの女の子とすれ違う。
48	閉K913.6/フル	月の上のつよがりロボット	古田 足日	リコリス	むかしの、むかしのはなしではありません。みらいの、みらいのはなしです。